

7月に向けて

代表取締役 三田雅憲

先日、当社のメインバンクで頭取や会長を歴任されました、T参与が当社を訪問していただきました。4月の当社55周年祝賀会にご本人の体調不良で参加できなかったために、今回忙し時間を割いて、ご訪問いただきました。もちろん専務はじめ、工場や総務の諸君には、工場や事務所の整理整頓清掃をはじめ、産業廃棄物の持ち込みなどもして頂き、綺麗な会社でお迎えできましたことは、嬉しく思いました。会社では1時間半の限られた時間ではありましたが、T参与は次の言葉を大切にするように助言を頂きました。その言葉とは、「**気配り・目配り・心配り**」を大切にしてください。という内容でした。

ここで少し言葉の解説をいたします。「気配り」とは、あなたが次に手にとろうとする物を、相手が先に気付いて自分に渡してくれた経験があると思いますが、このようなあれこれと気を遣う、思いやりの行動のことを「気配り」と言います。「目配り」とは、いろいろなところに注意を行き届かせて、その為の広い視野を持って、細かい点にまで気づくことができる行動のことを「目配り」ができると言います。最後の「心配り」とは、「気配り」とよく似ていますが、視点が違います。相手の立場になって考えて行動することが「心配り」です。「気配り」は自分の立場で考えて行動しますが「心配り」は相手を思い何をしてあげたら喜ぶのかと相手の心に寄り添い行動することです。しかし、相手の気持ちはわかりにくいものです。「何か手伝いましょうか?」「何か必要ですか?」と場面場面に合った声かけが相手を知るきっかけとなります。

T参与さんはビジネスにおいても、人間関係でも大変ご苦労されてきたと思います。そのためにこのような言葉を「座右の銘」として、自分にも言い聞かせながら80年の人生を歩まれたと感じました。また、銀行の名誉職も潔く、この6月までで勇退されるようです。私も寝屋川支店長の時からの知り合いですので、35年以上のお付き合いをさせていただいたこととなります。このような人生の師匠(技術や生き方の伝達者にとどまらず、生き方そのものを示す羅針盤のような存在。信頼と尊敬を軸に築かれる師弟関係は人生を豊かにする大切な要素です。)に出会えたことは、本当に宝のようなことです。昨今、いい年令になっても、首をかしげたくなるような事件や出来事を起こす人が毎日報道されたりします。どのような人と出会い、その方からのいい学びや人生の叡智(優れた知恵)を受け取れるかは、その人自身の考え方や心の持ちようであると思います。前向きに未来志向で一日一日を大切に過ごせたらと思います。

先日、朝礼でも公表されていましたが、当社の産業医さんに健康相談をしていただくので、その受付の運用が実施される予定です。当社の社員と光栄の森さんを含めて、1回20分程度ではありますが、先着順で1日3名まで、健康や医療にまつわる相談を先生にさせていただきます。(あくまで相談ですので、治療はいたしません。)ご期待ください。

また、「えるぼし認定」の取り組みに関しても、北大阪商工会議所様のご支援を受けながら「女性活躍推進企業データベース」へ申請が掲載されました。この目標に向けて、今後会社としては力を入れていきます。社員皆様のご支援ご協力をよろしくお願いします。

最後に6月20日には、東京青山にある米国大手のG設計事務所様から当社営業部が商品説明のプレゼンテーションの依頼を受けました。忙しい中で営業部はプレゼン資料の作成とロープレを重ねて当日に挑みました。結果は大変有意義で、良い影響を若手の設計者に残せたのでないでしょうか。今後見本市で養った技術を駆使して、各設計事務所やデザイン事務所への個別プレゼン活動を加速、推進していきたく思っております。営業部の諸君はよろしくお願ひしいのと、工場の諸君には、営業部が自信を持って商品や技術をPR出来る仕事を積み重ねてほしいと思います。また、総務部においてもバックアップ支援をどうぞよろしくお願いします。

7月も大阪千葉と暑い日が続きますが、身体に十分に気を付けて乗り切っていきましょう。